



箱根駅伝 2年ぶり出

箱根駅伝予選会は10月14日、東京・立川市で行われ、中央2大会ぶり91度目の出場権を獲得した。



予選会3位で2大会ぶりの箱根駅伝出場を決め、大喜びする中大の選手たち
(写真提供=共同通信社)



場!

大学は3位で通過し、

陸上自衛隊立川駐屯地から市街地を通り、国営昭和記念公園をゴールとする20キロコースに関東の49大学、656選手がエントリーした。各チーム上位10人の合計タイムで争われ、10位までが来年正月の箱根駅伝に出場できる。

スタートラインは陸自の滑走路だ。大勢の選手が一斉に走り始めると、敷地の広さが感じられない。箱根出場にかける参加校選手と関係者らの熱い気持ちを一面に敷いたようである。

外国人留学生が先頭集団をつくった。第2集団に各校のトップランナー。ここに中大3選手の顔が見えた。舟津彰馬主将(経2)、中山頭(法3)、堀尾謙介(経3)各選手。

市街地を走り、記念公園に入る。沿道はファンや応援者らで、もうこれ以上入る余地がないほどの超満員。『C 中央大学』と大書した「のぼり」が、至るところでそびえ立つ。

第2集団で先の中大3人が大健闘している。後続では4年生の竹内大地(法4)と江連崇裕(経4)両選手が、前後2つの集団でペースメーカーを務めた。

この先10～15キロがポイントだ。昨年はこのあたりから失速したが、全部員で復活を誓った今年は違った。まなじりを決し、前へ前へと出る。

コース終盤の公園内、藤原正和監督が人垣の向こうから伸び上がって声を掛ける。「ラスト100(秒)だ、絞り出せ!」。コース各所で出場12選手のレース展開を見る、アドバイスを送る。移動—移動のた

め、ベストポジションでの声掛けがままならない。

コース脇に用意された、ファン手作りのメッセージボード『復活 C 中大』などが選手を激励する。

800人の中大応援者

中山選手が日本人ランナー2着の8位でゴールイン。タイムは59分36秒。舟津、堀尾両選手がやはり1時間を切る好タイムで14位、17位と続いた。

1年生の畝拓夢(法1)、池田勘汰(商1)、川崎新太郎(経1)が33位、74位、126位と力を振り絞った。上位10人目となる神崎裕選手(文3)が1時間01分28秒でフィニッシュ。

公園内の控えエリア。次々と戻ってくる選手は納得顔だ。集計タイムは昨年(11位)より11分ほど短縮した。出場12選手、この日はサポートに回った部員、中大駅伝メンバー、一人一人の努力の成果である。成績発表が待ち遠しい雰囲気になった。

1位・帝京大学。2位・大東文化大学。この後だ。「3位・中央大学」とアナウンスされると選手たちは「やった!」「ウォー」とこぶしを突き上げ、体をぶつけあって喜びをあらわにした。チームメイトはみんな笑顔。藤原監督は中大ファンから握手攻めにあっている。

応援に駆けつけた中大ファン・関係者は約800人。選手の親が泣いている。女子学生2人が歓喜と感涙のハグ。オールドファンは目頭を押さえている。箱根出場は多くの人に喜びと幸せをもたらしてくれる。



予選会突破を目指して力走する江連、蛭田、神崎各選手ら

中山選手は「他校の選手と勝負できたのが良かった」とレベルアップを口にして、「よりいっそう頑張ります」と決意を新たにしました。

堀尾選手は「11月の1万km記録会で藤原監督が持つ中大記録を更新して箱根へ勢いをつけたい」と目を輝かせた。

2年生の舟津主将は「ここ(予選会)には2度と戻ってこないようにしたい。箱根ではシード権を取り、個人では区間賞」と力強く話した。

前回の正月は出場できず、寂しい思いをただけに箱根・復活出場の喜びはひとしおである。

応援が選手の力になる

中大OBで就任2年目の藤原監督は、中大駅伝ブログを通じて心境を明かし、全国の中大ファンへ

メッセージを送った。

『長く苦しい1年でした。しかし、選手たちが主体性を持って乗り越えてくれたことで、このチームは生まれ変わったと思います。今日は、初めてス

タッフの予想を上回る結果を出してくれました。彼らの成長には本当に驚かされています。明日からまたもう一度、気を引き締め、本戦でシード権を獲得するべく全員で精進してまいります。苦勞してきた4年生を今日引退させることなく本戦へ連れていけ、これから2カ月半、一緒にやれることが本当に嬉しいです』

同監督は、卒業生の祭典『ホームカミングデー』(10月22日・多摩キャンパス)の応援企画～箱根駅伝わが青春～でも会場のOB・OG

らに感謝した。

「声援が選手の力になっています。ありがとうございます」

シード権を取るために箱根駅伝の総合記録を精査して、「この10年ほどで10分速くなっています」とスピード勝負を予測。「戦国駅伝ですから、ちょっとしたミスで大きく変わってきます」と警戒する。

「テーマはチャレンジです」。予選を突破した。次は6大会ぶりのシード権獲得へ。本大会最多14度の総合優勝を誇る名門中大の、新たな挑戦が始まった。

■総合成績

順位	チーム名	記録
1	帝京大	10時間04分58秒
2	大東文化大	10時間05分45秒
3	中大	10時間06分03秒
4	山梨学院大	10時間06分21秒
5	拓殖大	10時間06分27秒
6	国学院大	10時間07分35秒
7	国士舘大	10時間07分47秒
8	城西大	10時間08分50秒
9	上武大	10時間09分42秒
10	東京国際大	10時間10分34秒

■中大選手成績

順位	記録	選手名	学部学年
8	59分36秒	中山 颯	法3
14	59分48秒	舟津 彰馬	経2
17	59分49秒	堀尾 謙介	経3
33	1時間00分22秒	畝 拓夢	法1
59	1時間00分50秒	苗村 隆広	文3
66	1時間00分53秒	竹内 大地	法4
74	1時間00分57秒	池田 勘汰	商1
75	1時間00分58秒	岩佐 快斗	経2
126	1時間01分22秒	川崎新太郎	経1
133	1時間01分28秒	神崎 裕	文3
165	1時間01分49秒	蛭田 雄大	経4
180	1時間02分01秒	江連 崇裕	経4

第94回東京箱根間往復大学駅伝

2018年1月2～3日

東京・大手町—神奈川・箱根町

